

第8回草津市総合計画策定委員会会議録		
日 時	平成21年5月21日（木）10時45分～12時00分	
会 場	庁議室	
出席者	橋川委員長、山岡副委員長、三木委員、加藤委員、林田委員、北川委員、山本委員、田内委員、勇委員、西村委員、善利委員、中村好委員、片岡委員、岸本委員、上寺委員、平井委員、田村委員、森委員、中村良委員	

## 1. 開会

## 2. 議事

### 1) 第5次草津市総合計画検討資料【現況課題、基本構想（素案）】について

事務局より説明

《意見等》

#### キャッチフレーズについての意見

- ・「ふるさと」に対する感じかたは、長く住んでいる住民と最近住んだ住民、これから住もうとする住民で違いがあると思います。草津市がわがふるさと、草津らしいふるさととを感じる事ができれば良いのではないかと。
- ・「ふるさと」というキーワードは良いと思う。「憧れ」については、他の言葉と合わないのではないかと。
- ・「ふるさと」というキーワードは良いと思う。「憧れ」については、あまりイメージが湧いてこない。
- ・「憧れ」という言葉が、将来ビジョンの文章中で、「憧れと…」が「新しい魅力を創り出す」とあるが、前後が結びつきにくい、魅力とした方が良いのではないかと。
- ・ふるさと意識を強く持っていただくという意味では、これで良いと思います。
- ・「ふるさと」は、自然や文化などを包含したキーワードですから、良いと思います。「誇れる」についても、古くからの住民だけでなく新しい住民も、自分がそこで育てられたと誇れるものは多くあると思いますので、良いと思います。
- ・草津市は、「元気、活気、活力」がありますから、そのような言葉も入れてはどうかと。
- ・基本的には良いと思いますが、「市民が誇れる」の文言だと、行政側から見た言い回しに感じてしまうので、「わがふるさと」のように変えてはどうかと。
- ・定住した住民を考えるのであれば、「ふるさと」は良い言葉だと思う。
- ・市民が個々に、10年後に誇れるものがあると考えてもらえるので良いと思う。
- ・「市民が誇れるふるさと」が、「出会いと憧れ」とイコールにならないといけない。「憧れ」では、二人称のような外から見た感じとなるので、市民が内から見た言葉、例えば「魅力」のような方が良いのではないかと。
- ・全国的に見ても、「ふるさと」という言葉を否定することは無いであろう。「憧れ」については、羨ましがっているように感じられるので、ここは自ら夢を実現していくことを強調したほうが良い。また、「出会いと憧れ」は少し生活感がありやさしいイメージになってしまう。活力と

という言葉はハード面だけを意味するのではなく、活力があるから新しい地域経営ができる、住民みんなでまちをつくるんだということもありますので、それを強調できれば良いのではないかと。

- ・10年後の姿をどのように持って行くんだとイメージできるように、自ら進んでやっていけるようなインパクトがあれば良いのではないかと。
- ・出会いとは多様な出会いのこと、学生や就業者も含め、草津市に関わる人々全てが「ふるさと」と感じられるようにして欲しい。「市民が…」とすると小さくまとまってしまう。
- ・市民をどのように見るかによって変わってくる。

### まちの構造図についての意見

- ・「やまて環状道路」は、湖南幹線を含むまちなかにも通っている図になっているが、「やまて」で良いのか。
- これは、第4次総合計画が、今回の「やまて環状道路」は外環状、「まちなか環状道路」は内環状として2つの環状道路しか位置づけていなかった。しかし、今回湖岸にも道路がありますので、「こがね環状道路」として位置づけました。それに伴い、内と外の環状道路も合せて変えたものです。
- ・「やまて環状道路」とするのであれば、まちなかを通るのはおかしいのではないかと。
  - ・この定義は難しい。いくつもパターンが作れるだろう。意図を明確にした方が良い。

### 行政の姿勢についての意見

- ・懇話会などの意見では、市民自治には市民参画が前提だが、一方で行政が仕組みを変えていくことも必要であるとのことでした。この資料には、新しい段階の市民自治とありますが、新しい段階とするには、この上の4点と下の2点の内容だけでよいのか。行政がどう変わっていくのかをもっと示さないと、参画だけを謳っているように感じる。小さく捉えてしまっている。「行政の姿勢」であれば、10年後のまちを示すため、自らも変えるし、市民と共に変える、またそれを市民も支えていくということを定義すべきではないかと。持続可能な地域社会をつくる上での行政のあり方を示すべきである。
  - ・今までは主体的に行政がやってきたものを変え、市民が主体となって、まちづくりの中で行政はこのような役割を果たしますということか。
  - ・この中で謳っている内容は、まさに行政システム改革で目指していることと同じ内容であるので、その理念をもう少し入れて、修正してほしい。
  - ・将来ビジョンから続く、基本構想の流れから見て、タイトルが「行政の姿勢」では合わないのではないかと。もう少し肉付けして、広い範囲で捉えたものにしてほしい。
  - ・これは、行政主体から市民主体へと変えていくために、行政が取り組むべき事や役割を表現している。
  - ・基本構想や各施策を、誰がどのようにして進めていくかを表現するべきだろう。
- 基本構想の中で、「まちづくりの基本方向」までは市民とともに共有するものであり、「行政の姿勢」は、あくまでそのために行政が取り組む姿勢を示したものです。元気があふれるまちの中で、「中心市街地の活性化」とあるが、これは商業、サービス業だけではなく、都市工業についても今検討している最中だが、総合的な表現にした方が良いのではないかと。

### 2) 施策体系図の照会について

- 基本構想に示された施策分野を、基本計画となる施策領域と施策を各課照会することにより、

施策分野の区分が、下からボトムアップした場合に、上の施策分野と合致するかどうか、うまく組み合わせることができるかを確認します。合致しない場合は、施策分野を修正する必要がありますので、内容が変わることがあります。施策分野で予算のウエイトを見ていこうと考えておりますので、今後10年どの分野のウエイトが高かったのかをこれで判断できます。

- 簡単には区分できないので、施策分野と下の施策領域や施策が、複雑に絡み合うだろう。
- 行政評価は、政策と施策と事業になっているが、この体系図では政策が出ていない。整合させる必要はないのか。

—以 上—